

西春彦 外交官。一貫して平和通商外交、<日米開戦>には東郷外相を支え、<敗戦>後も安保改定に反対の意見。

にしはるひこ

郡司千島探検1893 = 鹿児島県川辺郡加世田村で五男に生まれる。

日清戦争始・1894 = 1歳：

教科書疑獄・1902 = 9歳：

日露戦争終・1905 = 12歳：

大逆事件判決1911 = 18歳：

明治天皇没・1912 = 19歳：

第一高等学校を経て、

本格政党内閣1918 = 25歳：_東京帝国大学法科大学を卒業し、外務省に入る。高等試験外交科試験合格。

大暴落・・・1920 = 27歳：

原敬首相暗殺1921 = 28歳：

ニューヨーク・長春・モスクワ在勤後、

共産党事件・1928 = 35歳：*通商局第一課長となり、幣原喜重郎外相の平和通商外交を推進する。

世界恐慌・・・1929 = 36歳：

満州事変・・・1931 = 38歳：

国際連盟脱退1933 = 40歳：欧米局第一課長、

帝人疑獄事件1934 = 41歳：欧亜局第一課長として対ソ問題を担当、北満洲鉄道譲渡交渉などに携わる。

芥川直木賞始1935 = 42歳：青島総領事に任じられ、

二二六事件・1936 = 43歳：_参事官として、モスクワ勤務。<張鼓峰事件>などソ満国境紛争処理で重光葵大使を補佐。

日中戦争始・1937 = 44歳：

健保+総動員 1938 = 45歳：

第二次大戦始1939 = 46歳：_帰国、_欧亜局長として<ノモンハン事件>を処理。

大政翼賛会・1940 = 47歳：松岡人事により駐ソ公使に転出され、三度目のモスクワ在勤となる。

日米開戦・・・1941 = 48歳：_帰国。*外務次官に就任、東郷茂徳外相を補佐して日米交渉の妥結に努力。

・・・1942 = 49歳：_大東亜省設置に反対して、東郷とともに辞任。

年金+総武装 1944 = 51歳：_満洲国公使に出され、

敗戦・・・1945 = 52歳：_敗戦とともに帰国。

新憲法公布・1946 = 53歳：_極東国際軍事裁判被告東郷茂徳の特別弁護人となる。

新憲法施行・1947 = 54歳：

極東裁判決・1948 = 55歳：_公職追放。

独立回復・・・1951 = 58歳：

メテ-事件・1952 = 59歳：*戦後初代オーストラリア大使に就任、日豪漁業紛争の調停交渉にあたる。

55年体制始・1955 = 62歳：_英国大使となり、日ソ国交回復のロンドン交渉に関与、スエズ動乱調停の国際会議日本代表を勤める。

国連加盟・・・1956 = 63歳：

イスタラ-マ・1958 = 65歳：_退官。

_その後も、対ソ・対中関係を懸念して安保条約改定に反対するなど、日本外交の進路に意見を呈し、

安保闘争・・・1960 = 67歳：

TV宇宙中継始1963 = 70歳：_「わたしの外交白書-体験的国际関係論-」、

大学紛争始・1965 = 72歳：*岩波新書「回想の日本外交」を著し、

石油ショック1973 = 80歳：

角栄金脈辞任1974 = 81歳：

バブル始・・・1986 = 93歳：_没した。